

# OMIYA MAIL NEWS



JR EAST  
TRANSPORT  
SERVICE WORKERS  
UNION

JR東日本輸送サービス労働組合  
JTSU-E OMIYA 大宮地方本部

2024.12.22  
No. 018



HOMEPAGE



TWITTER

## 7. 遠距離通勤している乗務員が初電で通勤できるように出勤時刻を見直すこと。

会社回答：行路の設定については、乗務割交番作成規定に基づいて行っているところである。

組合) 早出勤で現在、平 506 行路が 6:37 出勤。希望せず異動してきた人が多く、自宅が遠い人が多い。

会社) 平準化を目指していくが乗泊を活用していただきたい。

## 8. 横浜運輸区泊を 2 行路以上とすること。

会社回答：行路の設定については、乗務割交番作成規定に基づいて行っているところである。

組合) 毎年要望していること。見習いにその行路を取られてしまうと長期間行かなくなる。

会社) 実現できるかは別として技量維持の観点から均等化していく考えである。

## 9. エンド交換を行うホームドア設置駅では、折り返し時間を拡大すること。

会社回答：必要な時分は確保しているところである。

組合) 南オフィスの 5 項でも議論した内容と同様です。

会社) 現場の声として承った。

## 10. 府中本町駅の乗務員用シャワー増設、または駅社員用の浴室を使用できるようにすること。

会社回答：設備の整備については、必要に応じて関係機関に要請していく考えである

組合) こちらも毎年要望していること。全く改善されていない。

会社) 八王子支社には要望をしている。

## 11. 西船橋 9~12 番線ホームにおいて、安全確保の観点から朝夕通勤時間帯に立ち番を配置すること。

会社回答：必要に応じて関係機関に要請していく考えである

組合) こちらも毎年要望していること。千葉エリアプロジェクト申 11 号でも議論しているが、千葉支社は「初めて問題意識を持った」と回答している。

会社) これまでもしっかりと伝えている。今回のやり取りもしっかり伝える。

## 12. 武蔵野運輸区の寝室内の環境を見直すこと。

会社回答：設備の整備については、必要に応じて関係機関に要請していく考えである

組合) 卍型の寝室は効率と低コストで考えたものだと思うが現場は使いづらくて不評である。

会社) 卍型の寝室が不評なことは現場からも聞いている。今後拡大展開する予定はない。

## 13. 大宮駅 3・4 番線ホームの駅事務室を使用できるようにすること。

会社回答：必要な環境整備は図っていく考えである

組合) 輸送混乱時、東大宮からいつ入線してくるか分からない。駅事務室を使わせてほしい。

会社) 言われている駅事務室は駅倉庫になっている。休める状態ではない。現場の声として承った。

## 14. 東所沢駅の旧点呼室を使用できるようにすること。

会社回答：設備の整備については、必要に応じて関係機関に要請していく考えである

組合) 間合い時間が僅少だと運輸区まで行く時間がない。実際、列車にあたりを出している。

会社) 現場の声として承った。

## 15. 乗務員室内にあるタブレット装置を使いやすいようにすること。

会社回答：必要に応じて関係機関に要請していく考えである

組合) 充電・音声コードの故障が多すぎる。点検しているのか？

会社) 確認は取れていない。報告書で故障状態と編成を報告していただきたい。

## 16. 今後ホームドア定位置ランプが常時点灯しない事に対するの考えと具体的な対策について明らかにすること。

組合) ホームドアの定位置ランプを何故交換しないのか？駅によって基本動作が変わってしまうことはおかしい

会社) 車内の定位置表示灯で確認することを指導している。今後交換は出来ない理由はランプの製造終了のため。